

## 「21世紀型市民」をどう考えるか

2009. 4. 17. 荻部 直 (かるべ・ただし)

答申『我が国の高等教育の将来像』(2005年1月)

社会の複雑・急激な変化、国際化・科学技術の発展

「幅広い視野から物事をとらえ、高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材」

「専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考方法等の知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養」

答申『学士課程教育の構築に向けて』(2008年12月)

「多様化・複雑化する課題(例えば、人口問題、資源エネルギー問題、地球環境問題など地球の持続可能性を脅かす課題)に直面する現代の社会に対応し得る自立した市民」

「自由で民主的な社会を支え、その改善に積極的に関与する市民」

～社会の複雑性への対処・個の自立・デモクラシーへの積極的関与

cf. 2001年、「21世紀日本の構想」懇談会報告

個の確立と協治を通じた、「新しい公」の創出:「たくましく、しなやかな個」

「市民」の言葉のもつニュアンス→「市民運動」=自立した批判的公衆

cf. 松下圭一「&lt;市民&gt;的人間型の現代的可能性」(1966年)

初等中等教育の領分:品川区「市民科」の例

あいさつ、友達とのかかわり方～地域ボランティア活動・職場体験・模擬議会

大学教育では、どこに重点を置くのか→参加実践よりは、知的訓練がツールに

(「市民」の能力のうち、どの側面を、大学は特に育てられるのか)

①批判的思考力:政治・社会の動きに対するチェック

世の「現実」の把握、情報リテラシー、数量的スキル

②社会的責任:政治・社会への「関与」についての知識

義務論、応用倫理、政治思想、法的思考訓練

表現し、議論するスキル

③国際化・社会変化への対応:他なるもの・異質なものに対する感覚

歴史・文学・語学の効用 cf. Martha C. Nussbaum “narrative imagination”

自-他の伝統の理解